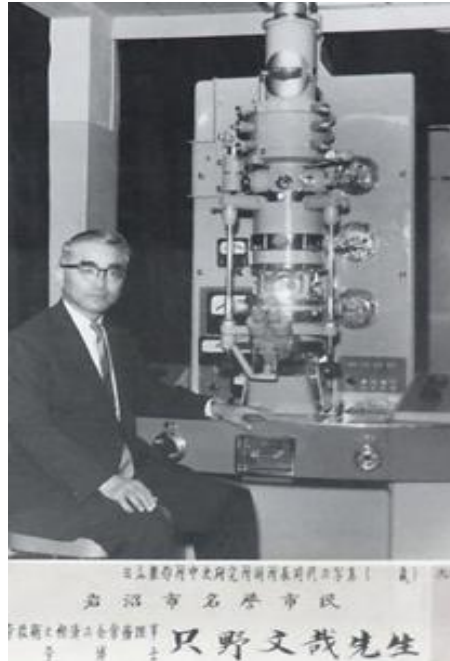


「ミクロの世界をのぞいてみよう」

日本の電子顕微鏡のうみの親 只野文哉 先生



ただの ぶんや 只野 文哉 【プロフィール】

明治40年 旧岩沼町南館下(大手町)生まれ。

高等小学校2年(14歳)の時、先生に借りた「子供の聞きたがる話(発明発見の巻)」(原田三夫:誠文堂、1920年)という本を読んで触発され、技術者になろうと思われ上京した。

苦学の末、33歳で日立製作所に入社し、創設された中央研究所で、ドイツで発明された電子顕微鏡の研究開発と事業化の仕事を始められた。只野博士は、日本の電子顕微鏡の産みの親である。

45歳で岩沼市の前身である岩沼町の名誉町民になられた。日立製作所では電子顕微鏡の開発だけでなく大勢の優秀な人材を育てられた。

65歳で退職後、科学と経済を考える会に移られた。その年、母校の岩沼小学校の創立100周年を記念して講演をされ、それから96歳までの31年間、毎年岩沼を訪れ、小学校や中学校で「宇宙船」「雷」「地震」「超高速鉄道」「ハレー彗星」「電子顕微鏡の世界」などいろいろな科学テーマを選んで講演され、児童生徒に科学の面白さを伝えていただいた。

岩沼市教育委員会では、只野文哉先生の功績を称え、毎年10月に「理科大好きフェスティバル」を開催しており、夏休みの自由研究で優秀な作品を表彰し、いろいろなブースを設け体験しながら科学の面白さを味わってもらっている。

そして、本事業「ミクロの世界をのぞいてみよう」では、只野文哉先生が開発された電子顕微鏡の最新型を使用し、1000分の1ミリから30000分の1ミリの世界を体感してもらっている。

1940年 東京大学から電子顕微鏡に関する研究で工学博士の学位を受賞

1952年 岩沼町名誉町民に推戴

1956年 恩賜発明賞を受賞

1958年 紫綬褒章を受章



公立小学校で初めて電子顕微鏡を設置した 「岩沼小学校」と只野文哉

みやぎの教育

日本初

岩沼市

只野文哉(1907～2005)



岩沼市図書館にある
電子顕微鏡



(岩沼市教育委員会提供)

只野文哉と初期の
電子顕微鏡



2009年(平成21年)3月13日、岩沼市立岩沼小学校で電子顕微鏡を使った授業が行われた。この電子顕微鏡は、岩沼市出身の工学博士・只野文哉が勤務していた企業から岩沼市が購入し、**日本の公立小学校として初めて設置された。**

また、只野は、**31年間、岩沼市の小中学生延べ38,163人に対して科学の素晴らしさを伝える講演会**を続けた。



国産初の電子顕微鏡を開発した只野文哉工学博士とは？

只野文哉は、岩沼町南館下(現岩沼市大手町)出身。小学校を卒業後上京し、発明家・大野^{あたが} 怡の内弟子になる。仕事を手伝いながら私立工手学校(現・工学院大学)の夜学に通い、成績優秀者として逓信省電気試験所の技工に採用された。

その後、電子顕微鏡研究の中心人物・笠井完の在籍する日立製作所の研究員になり、1941年(昭和16年)には国産電子顕微鏡「HU-1型」の製作に関わった。只野は1948年(昭和23年)電子顕微鏡の論文により、**日本で初めて電子顕微鏡研究で東京大学から工学博士の学位**を受けた。1955年(昭和30年)には、改良を重ねた電子顕微鏡HU-9型がアメリカの大学に輸出され、日本の科学技術を世界に示した。現在でも、日本は世界の電子顕微鏡のシェアでトップクラスである。

只野文哉は、定年後の1973年(昭和48年)、故郷の同級生達の呼びかけを受け、小中学生を対象に科学講演会を始めた。技術者らしい真摯な姿勢で質問に答え、亡くなる2年前の2003年(平成15年)までの31年間、子供達に科学の面白さ・素晴らしさを伝えた。

参考：岩沼市「志を立てる-岩沼市名誉市民工学博士只野文哉先生講演集」岩沼市(1995)